

論文審査の結果の要旨

平成 26 年 3 月 15 日

城西国際大学大学院経営情報学研究科博士論文審査委員会は、博士学位請求論文申請者城西国際大学大学院経営情報学研究科起業マネジメント専攻 伊藤武志氏が、本学大学院経営情報学研究科に提出した学位請求論文「顧客価値志向による経営の質の向上」について審査した結果、学位（博士：経営学）を授与することが相当であると判断した。審査結果の要旨は次のとおりである。

1. 論文の構成

要旨、序章、第 1 章、第 2 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章および結章から構成されている。頁数は要約が表紙を含めて 5 頁、本論が表紙、目次を含めて 156 頁である。

2. 審査手順

申請者の自己紹介、申請者による本論文の要点紹介の後、論文審査委員会審査委員による質疑応答が行われた。

申請者は、早稲田大学政治経済学部を卒業し、民間銀行に勤務の後、米国ノースウエスタン大学経営大学院修士課程を修めた。その後、日本において経営コンサルタント及び人材開発の実務に従事しており、多数の日本企業の実情に精通している。こうした実務経験及び研究実績をもとに、申請者は日本企業の行動原理の中に顧客価値を第一に考えるという志向はなかったのではないかと問題意識を持つにいたった。そこで櫻井通晴客員教授の指導の下、主としてキャプランとノートン (R.S. Kaplan and D.P. Norton) の所説によりながら、研究のフレームワークを構築して、各章の研究を進めた。

3. 質疑応答

まず、本論文は、どのような点で学会に貢献すると考えられるかが質問された。これに対して申請者は、管理会計の分野では、顧客価値の立場に立った研究は必ずしも多いとはいえないなかで、同分野に置ける研究に 1 つの風穴を開けたのではないかとその意義を述べた。

次に、学位審査を合格するには、3 点をクリアーする必要があるとして、①日本で翻訳紹介されていない英文論文 2 本、②学会報告 2 回以上、③キラリと光る箇所が 5 箇所以上を挙げて、本論文はいずれの条件も満たしているとの意見が述べられた。

このうち英文 2 本は、例えば次の論文等が該当する。

Govindarajan, Vijay and Ravi Ramamurti [2011] Reverse Innovation, Emerging Markets, and Global Strategy, *Global Strategy Journal* vol.1, No.3-4, pp.191-205.

Elkington, John [1997] *Cannibals with Forks : Triple Bottom Line of 21th Century Business*, Capstone Publishing Ltd.

申請者は、第 72 回日本会計研究学会、第 38 回及び第 39 回日本原価計算研究学会などで研究成果を発表済みである。

論文には、例えば「戦略策定プロセスの調整の理想像と課題解決の方向性」と題する図表を独自に作成したのをはじめ、先駆的な研究成果を論理的に説明するなど優れた点も数多く見られる。

最後に、本論文は、哲学、倫理学などのほか、管理会計論、経営学、マーケティング、心理学などの幅広い知見に基づいていること、論文の構成力、読みやすい文章力に優れていること、など評価する点が多い。例えていえば、本論文は日本企業ならびに経営者に顧客価値という古くて新しい価値観を再度見直すきっかけを与えることになるのではないかと思われる。

4. 要望事項

「アラインメント」「ストレッチ」等の専門用語が多用されているため、一読してすんなりと頭に入ってこないという印象が残った。学問の性格上やむを得ない面があるとしてもできるだけ日本語で表現して欲しい。これらの若干の問題は今後の更なる研究によって克服ないし解決されることを期待したい。要旨を結ぶに当たっての希望である。

主査： 経営情報学研究科 岡東 務

副査： 経営情報学研究科 櫻井 通晴

副査： 経営情報学研究科 野澤 建次